

国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議について 資料 4

【現状・課題】

- 「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」（令和3年3月31日文部科学大臣決定）においては、**今後の国立大学等施設の方向性として**、キャンパス全体を、「**イノベーション・コモンズ（共創拠点）**」へと転換することが掲げられている。
- 近年、様々な産学官連携が行われる中、「イノベーション・コモンズ」を巡っては、具体的なイメージが浸透しておらず、キャンパス全体を踏まえた取組事例が少ないなどの課題がある。このため、**各大学等による理解の形成とモデルとなる事例の横展開が重要**である。また、共に創造活動を行う**社会からの理解を得ることも必要**である。

【設置の目的】

- 各大学等における「イノベーション・コモンズ」の実現に向けて、**先導的な取組事例を踏まえて現状・課題等を整理**するとともに、地方自治体や産業界等の多様なステークホルダーとの共創を促進するための**国の支援策等を含めた、更なる推進方策を検討**する。
- 先導的な事例や推進方策を発信することにより、**大学のマネジメント層や地方自治体、産業界等の理解を促し、イノベーション・コモンズの実現に向けた組織的な取組を進展させることを目指す**。

【検討体制】 ※令和4年8月頃に報告書とりまとめ予定

「国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議」

社会情勢の変化や大学等のあるべき姿等を踏まえた、共創拠点の考え方や推進方策、国の支援方策に関して検討

- | | |
|----------|---|
| 池田 三知子 | 一般社団法人日本経済団体連合会SDGs本部長 |
| 岩村 水樹 | 東京大学理事（総長ビジョン推進担当）、グーグルバイスプレジデント |
| 片岡 郁雄 | 香川大学 理事・副学長（研究・産官学連携・教員評価担当） |
| 金子 慎治 | 広島大学 理事・副学長（グローバル化担当） |
| 後藤 景子 | 奈良工業高等専門学校長、独立行政法人国立高等専門学校機構理事 |
| 篠原 聡子 | 日本女子大学学長 |
| 土井 美和子 | 国立研究開発法人情報通信研究機構監事、東北大学理事、奈良先端科学技術大学院大学理事 |
| ◎ 西尾 章治郎 | 大阪大学総長 |
| 濱田 恵造 | 香川県知事 |
| 山内 正則 | 高エネルギー加速器研究機構長 |
| ◎：主査 | |

ワーキング・グループ

先導的事例及び事例を踏まえた推進方策等について、施設面も含めて具体的に検討

- | | |
|--------|----------------------|
| 上野 武 | 千葉大学名誉教授、運営基盤機構特任教授 |
| 倉田 直道 | 工学院大学名誉教授 |
| 下條 真司 | 大阪大学サイバーメディアセンター長、教授 |
| 竹内 比呂也 | 千葉大学副学長、人文科学研究院教授 |
| 恒川 和久 | 名古屋大学大学院工学研究科教授 |
| 出口 敦 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 |

イノベーション・commons（共創拠点）の実現に向けて まとめの方向性（案）

「国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議」（主査：西尾章治郎 大阪大学総長）において、共創拠点の実現に向けた今後の推進方策について検討。令和4年夏頃に最終報告を取りまとめる予定。

国民に支えられる国立大学等のキャンパスは「国家的な資産」であり地域の貴重な「公共財」。学生や教職員だけではなく地域や産業界などの社会の様々なステークホルダーと共に最大限活用して、新たな価値等を生み出す「共創拠点」を目指す。

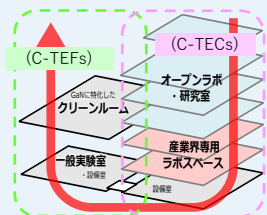
イノベーション・commonsの実現に向けて、

- イノベーションを「社会的に意義のある新しい価値を創造し、社会的変化をもたらすこと」として捉えることが必要
- 教育研究活動等のソフト面とハード面の一体となった取組の展開
- キャンパス全体で産学連携・地域連携やアクティブ・ラーニングの場等、様々なステークホルダーが交流・対話し共創する場を展開
- 「共創」のコンセプトに基づく全学的・組織的な活動を踏まえ、キャンパス全体の再構築や個々の施設整備を推進

各大学の特色・強みを発揮させ、社会変革を牽引する取組の強化につなげる

最先端のイノベーション創出

- ・異分野の研究者の交流等、双方向コミュニケーションを意識した共創的空間を整備
- ・世界をリードするイノベーション創出を推進



最先端研究と産学官連携を繋ぐ一気通貫の場

実証実験の場

- ・地元自治体や企業とSociety5.0やスマートシティの実現に関する包括連携協定を締結
- ・キャンパスを活用し自治体・企業等と実証実験を推進



キャンパス内道路を活用した自動運転の実証実験を実施

世界と地域を結ぶ結節点

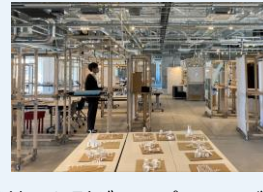
- ・世界と大学、地域を結ぶキャンパスを目指し、地域の国際化、商業・市民活動の活性化に貢献
- ・市の施設を大学と共同利用し、資産を有効活用



大学キャンパスと市の施設、駅前広場等を一体的に整備

地域産業振興

- ・「街と一体となったキャンパスをつくる」構想の下、分野横断的な教育研究を展開
- ・地元企業等と共同研究を行う環境を整備し、地域産業振興・活性化



隣接した別グループのものづくりや共同研究を可視化（コモンスタージオ）

地域・社会貢献

- ・「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」がコンセプト
- ・学生の交流や地域に開かれたキャンパスで地域住民との交流が活発



学生同士、地域との交流が誘発されるスペース（R-AGORA）

教育・人材育成

- ・次世代地域社会を牽引する人材育成のため「地学一体」による教育を展開
- ・関係者が集うプラットフォームを設立し、地域課題を議論



地域社会との繋ぎの役割を担う施設を整備

イノベーション・commons実現のための取組のポイントと具体的なイメージ

《取組のポイント》

- 大学のビジョン等に「共創」を位置づけ、キャンパスマスタープランを策定するなど、ソフト・ハード一体となった取組を実施
- 施設整備の企画段階から、多様な関係者を巻き込み、ハード面・ソフト面の創意工夫
- 活動の可視化、交流の誘発などに配慮した施設整備
- 各主体における財政負担や体制整備等の対応

《具体的イメージ》

- 学生や研究者の交流・議論を活性化するためオープンでフレキシブルな空間確保
- キャンパスを実証実験の場として活用
- 大学活動に地域住民が参加できる空間整備
- 交流空間など多文化共生ができる場の整備
- キャンパス内外の資産の有効活用

⇒ビジョン等に基づき、キャンパス全体に交流・対話し共創を行う場を整備

国が取り組むべき方策

- 国の予算のより一層の確保・充実
- イノベーション・commonsの実現に資する施設整備への重点的な支援
- ソフト面とハード面の一体となった取組への支援
- 施設整備の企画段階からの一貫した支援の展開
- 現行制度・運用や新たな整備手法等の発信
- KPIの設定とフォローアップ
- 共創拠点化の成果の可視化、情報発信の強化
- 全国組織を含むステークホルダーへの働きかけ、大学等の取組の掘り起こし・伴走支援

国立大学等が取り組むべき方策

- ソフト・ハード一体の取組、施設整備の着実な推進
- 各主体のリソースの最大活用、協力関係の構築
- 共創活動の可視化、共創拠点の実質化と情報発信
- 都市計画制度の枠組みの最大活用等

地方公共団体・産業界への期待

- キャンパスを都市計画等に位置づけた検討
- ビジョン・目標の共有と役割・強みの明確化
- 高等教育を所管する部局等の設置（地方公共団体）
- 地域プラットフォームや産学連携事業等の活用